

一般社団法人笛吹青年会議所

2020 年度

理事長所信（案）

これは私の人生の一部であり

皆さんの人生の一部に関わる話です。

■ はじめに

自分が何かに取り組もうと思う時の理由、そしてその先にある人生の目標を把握しておくことは大切です。私の場合は周囲の人と「より良く、より楽しく、より美しく」を創造したり共有したいという気持ちが動機づけであり、そして最後には「良い人生（幸せ）だったと思って終える」それが私の最終目標です。ですので私は私に関わる人達と一緒に一分一秒でも長くより良く、より楽しく、より美しい時間を過ごしたいと願っています。

現在の日本人の健康寿命は男性72歳、女性75歳くらいだと言われてますが、その頃の自分をリアルに想像してみてください。自分は健康なのか？引退しているのか？仕事で成功してるのか？どんな技術を習得しているのか？家族と一緒にいるのか？幸せなのか？そもそも生きているのか？残念ながら私の今の能力では結局のところ希望はあってもリアルな想像はできません、5年先の自分でさえ確信はもてません。しかし、未来の私を取巻く環境は私の希望とは関係なく、身近な資料でなんとなく想像ができます。例えば日本人の人口推移と人口ピラミッド、労働人口と在留外国人の推移を見れば、鎖国でもしない限り、40年後には日本は超高齢化社会を支えるために労働人口をアジアを中心とした外国人労働者で補う多民族国家となることは容易に想像がつきます。超高齢化多民族国家日本をイメージし難い場合は、今日あなたが1日に会う人の4割が65歳以上の高齢者で残りの半分以上が習慣、慣習、風習の違う外国人になることを想像してみてください、その頃には私自身も高齢者に属していますが、このままいけば日本の未来は確実にそうなります。さらに政府の掲げる未来成長戦略では外国人材だけでなく女性、高齢者、障害者の社会へ積極的な参加を促していたり、Society5.0では人ではなくビックデータとAIが我々の生活を支える社会を目指しています。これらは絵空事ではありません、自分の周囲で何が起きているのか把握できないとしても、

そこに国の予算や人材が投与される以上、歩みのスピードはわからなくとも確実にその方向に向かって進んでいきます。

今後はさらに多様化する価値観に対応する柔軟さや、極度に違った価値観を認めた上で自分の目的を達成する意志の強さやコミュニケーション能力など今とはまた違った能力が国民全体に求められてくると思います。そのような日本になっても私は胸をはって良い人生だったと言いたいのです。そして私の周りの人達にもそう思ってもらいたいと願っています。

今のままで大丈夫ですか？

あなた自身は大丈夫だとしても、あなたの周りの人達は大丈夫ですか？

ぼんやりとでも何か変えた方がいいと心がうずきませんか？

私は青年会議所という団体は、20代～40代の青年が自身を取り巻く環境を自らの力で自分の信じる良い方向へ変える術を体得する場だと信じています。この能力は何時の時代どんな困難に陥ったとしても有効な能力です。もし今とくに変えたいことがないとしても、5年後10年後にいざ何かしたい、何かを変えたいと思った時、この能力がきっと役に立ちます。

2020年度一般社団法人笛吹青年会議所は創立41年目として次の節目である50周年へ向け新たなスタートを切ります。そのために1981年創立以来から続く伝統ある笛吹青年会議所を継承しつつも時代に合わせた新たな変化を取り入れ、笛吹市で最も「持続可能な開発目標」(SDGs)に取り組む団体として活動を展開していきます。

■ 基本方針① 繋がりを基軸とした 未来のためのまちづくり

「笛吹の文化は市民の誇りとして次世代に受け継がれ、産業は人びとの生活を支える基盤となり、市民は安心して子を生み、親は安心して子供を育て、子供たちの笑顔がまちに活力を与える。市民の愛郷心が外へ伝播し訪れる人やそこに暮らす人が次第に増え、人びとの所得と幸福度は向上し、地域社会に好循環が起きる。市民の誰もが何度でも挑戦できる持続可能な地域」私は私の住む笛吹市にこのような未来を望んでいます。

私たち笛吹青年会議所は、昨年から新たなミッションを策定し次のビジョンへ向かって取り組みがはじまりました。これまで培った地域との繋がりを活かし、方向性を共有した団体の枠を超えた大きな横のつながりを笛吹市に形成します。そしてあらゆる可能性を視野にいった地域社会の好循環を目指した継続的なまちづくり運動を展開していきます。

■ 基本方針② 愛郷心を基軸とした 未来のための青少年の育成

序盤に述べたように、今後日本は年齢や国の違いから価値観が多様化混在する社会になります。我々はその中で他者の価値観を受け入れながらも自分の考えを主張できる人材を育成していく必要があります。幸運にも2020年には東京オリンピック・パラリンピックという全世界の価値観が日本に集まる機会が我々にはあります。近代オリンピックの提唱者であるピエール・ド・クーベルタン男爵は、オリンピックのあるべき姿（オリンピズム）として「スポーツを通して、心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解し合うことで、平和でより良い世界の実現に貢献する」という理想を掲げています。この機会を活用し互いに理解し合う精神の構築を目指します。

また、私は地域に根ざす人材の育成のためには愛郷心を育むことが大切であると考えます。愛郷心は自分の生まれ育った故郷を知ることから始まります。ただし、文芸家の寺山修司氏が「望郷の歌を歌うことができるのは故郷をすてた者だけである」というように、外を知って初めてわかる景色というのが必ずあります。ただ単に自分が住んでいる地域だから好きだと声を張るのではなく、良い面も悪い面も知った上で、この地域で希望ある未来を創造したいと思う人材の育成が欠かせません。私達が住む地域を様々な角度から学び、青少年のアイデンティティの強化を図ることが大切であると考えます。

■ 基本方針③ 組織改革を基軸とした 未来のための会員拡大

不十分な計画の上で行われる無理な活動展開から会員の企業、家庭生活に悪影響を及ぼしてしまったり、十分な情報を提供しないまま強引な勧誘を行ったり、その結果モチベーションを失った、あるいは初めから持ち合わせていない名ばかりの会員で連なる組織になることは、さらなる組織の衰退を招いてしまいます。

そこで2020年度は地域とのつながり強化を図りながら組織としての信頼を獲得し女性や20代をターゲットにした拡大戦略の立案と新入会員のフォローアップ体制の強化を提案したいと考えます。時代の変化に対応し社会で活躍できる人材を育成する組織であり続けるためにも、女性や20代の心を掴み留める、柔軟かつ解放的な組織改革を実践していきます。

■ 基本方針④ 修練を基軸とした 会員同士の支え合い

青年会議所の三信条にある友情（フレンドシップ）とはなんでしょうか？

”BIBLE OF JAYCEE”には次のように書かれています「…このJC運動なるものは、まず若い人が集まって自己啓発，修練をするものであり，ついでその力を用いて地域社会へのサービスをするものであって，さらにその修練（トレーニング），奉仕（サービス）を支える力として会員全体を貫く友情（フレンドシップ）がある。」とあります。つまり青年会議所の友情とは仲間と活動を支え合う力として組織の「動力源」といえるのではないのでしょうか？

人脈を広げるため、リーダーシップを学ぶため、異業種との交流を深めるため、どれもただ組織に属しているだけで与えられるものはなに一つとしてなく、修練を通じて獲得していくものばかりです。つまり、我々は修練をするためにこの組織に入りました、なんでもかんでも「修練だから」と言葉を乱用する人も中にはいますが、そもそも修練とは他人から言われるものではありません、自らが修練だと思えてこそ初めて修練となります。また無理をするのが修練でもありません、バランスを保つことが修練です。

燃料のない車は当然動きません。修練を通じて自己研鑽することと、友情を育むことは青年会議所においては同じ意味です。一人でできる青年会議所活動はありません。頑張ろうと決めたらまず仲間の協力を募ってください。そして協力を求められても求められなくても頑張っている仲間を見たら手を差し伸べてください。その気持ちこそが笛吹青年会議所の燃料となり起爆剤となります。

■ 結びに

「青年会議所とは」という解説の中に以下の文章があります。

「青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならないといけないと考えます。」

「青年」という言葉を「私」に置き換えてみてください。

最も大切であり、最も尊ばれるべきはあなたの「動こうとする意思」です。

一般社団法人笛吹青年会議所第41代理事長という大役を与えてくださった皆様に感謝すると共に皆様の期待に応えるべく全力で活動することをお誓い申し上げ、所信とさせていただきます。

基本理念

「大切な存在のために希望にみちた明るい未来を創造しよう」

基本方針

1. 繋がりを基軸とした 未来のためのまちづくり
2. 愛郷心を基軸とした 未来のための青少年の育成
3. 組織改革を基軸とした 未来のための会員拡大
4. 修練を基軸とした 会員同士の支え合い

一般社団法人 笛吹青年会議所 2020年度
第41代理事長 長田慎之介